

ホタテ貝殻から歯ブラシ

牧方さん（3年）考案 万博で発表へ

国内外の学生が一堂に会し起業や技術革新に関するアイデアを発表するコンテスト「Youth Innovation EXPO（ユース・イノベーション・エキスポ）」の東日本大会（23日、仙台市）で、ホタテの貝殻を歯ブラシに再生する事業について発表した弘前大学農学生命科学部3年の

牧方（まきかた）咲良（さくら）さんが優勝した。学生ベンチャーの代表である牧方さんは、ホタテ貝殻成分を利用した歯ブラシを6月に発売する方向で準備を進めている。7月19日、大

約20万ト、県内でも年間約5万ト廃棄されるホタテの貝殻の再利用に着目。歯ブラシに再生するビジネスを行うため合同会社「Mint And」（ミントアンド）を今年1月に設立した。クラウドファンディングで150万円を集め、貝殻成分を柄の部分に使った歯ブラシを、大阪府の業者に依頼して製造した。6月に商品をオンラインなどで販売する。

コンテストは「文化資本 トチームあすのわ」が主催。創研 学生万博プロジェクト 7個人・チームが出場した



「ホタテ貝殻歯ブラシ」を手にする牧方さん。「コンテスト本大会では青森の魅力を伝えたい」と意気込む

東日本大会で、牧方さんは5分間、ホタテの貝殻利用が循環型社会実現につながることを訴えた。事業の実現性や、環境保全への貢献度が高いことなどが評価され、代表に選ばれた。

7月の本大会では、日本、アジア、欧州、北米の代表が英語でプレゼンテーションする。牧方さんは本大会に向けて「国際色豊かな素晴らしい舞台に登壇できることを心から光栄に思う。青森の資源を生かした取り組みが社会に貢献できることをアピールしたい」と意気込みを語った。（菊谷 賢）